

## 漢語オノマトベに関する一考察

### ——A A（ト）型の歴史的概観及びその位置づけ——

劉 玲

キーワード：漢語オノマトベ、固有オノマトベ、A A（ト）型、二次的存在、一次化

#### 要 旨

本稿は、漢語オノマトベ（古典中国語に出自するもの）の代表的なパターンの一つであるA A（ト）型（「飄々（ト）」「悠々（ト）」など）に注目して、その使用状況について奈良・平安期から近世初期頃にかけての八種の資料（31 文献）を使用して歴史的に概観した。計 158 語 633 例を得た。そのうち、21 語（延べ 390 例）が各時代の多くの文献に現れ、古辞書類に掲載されているように、A A（ト）型の受容が進んでいることを指摘できる。また、こうした漢語オノマトベは、漢字表記が介在しているため、純粋に音象徴によるという基準で考える時に固有オノマトベとは同一視できず、二次的存在であること、そしてそのうち固有オノマトベの音形パターンに合致しているものは、次第に使用者にとって漢語でなく固有オノマトベと意識されるようになり、一次化（固有オノマトベへの合流）が生じることについて論じた。

#### 0 はじめに

日本語の語彙の中に、オノマトベ（擬音語・擬態語、音象徴語などともいう）といわれる一群がある。人間や人間以外の生物の発する声や音、または自然界に生じる音響や無生物が発する音響を言語音で表現する擬音語と、人間を含む生物、無生物、自然界の有様・現象・変化・動きなどの状態・様子といった声や音または音響には無関係な事象を象徴的に言語音で表現する擬態語の類である。例えば、「今までざあざあ降りの翌日はからりと晴れたものだった（天沼〈1974〉・朝日新聞・昭和47.6.14）」の「ざあざあ」（擬音語）や、「こんなにざんざん降って困ったね（飛田・浅田〈2002〉）」の「ざ

んざん」(擬態語)などである。これら日本語に固有のものを本稿では「固有オノマトペ」と呼ぶことにする。

実際、これら固有オノマトペ以外に、一般語の場合と同様に、古典中国語から受容された漢語のものが少なくないということが先行研究によって指摘されている。例えば、田中(1978<116 ペ>)では「日本語のオノマトペの特色として、「煌々と灯がともる」「燦々と日が注ぐ」「炎々と燃える」「鬱々たる気分」「殷々たる砲声」「轟々たる爆音」「錚々たるメンバー」「侃々諤々の議論」「喧々囂々」「戦々競々」といった、漢語系の描写語が、たくさん見られる」としており、また、鈴木修次(1978<140 ペ>)では、「齟齬」「鬱々」「轟々」「滾々」などを挙げ、「日本語の擬態語、および擬声語の一部のなかには、漢語の音読みがそのまま日本語として定着しているもののがかなりある」としている(用例中「轟々」「滾々」「殷々」「喧々囂々」は擬音語、それ以外は擬態語)。先行研究では、これらを「漢語の擬音語・擬態語」、「音象徴語の漢語」、「漢語の音象徴語」、「擬似オノマトペ」など<sup>2)</sup>と呼んでいる。本稿では「漢語オノマトペ」と呼ぶことにする。

筆者は、上記の先行研究が指摘した「煌々と」や「鬱々と」のような疊語型(本稿ではこれをAA(ト)型と呼ぶ)に注目して、これまで、「颯々(ト)」「茫々(ト)」「濛々(ト)」「悠々(ト)」の四語をとりあげて個別的な語の考察を進めてきた。このうち、「茫々(ト)」の場合は中国語から受容してきた複数ある意味のうち一部が消失し、「颯々(ト)」と「悠々(ト)」の場合は中国語から受容してきた複数ある意味のうち特定の意味に限定されたというような意味変化を明らかにし、そうした意味変化の背景に固有オノマトペとの交渉があったことを指摘した。また、「濛々(ト)」の場合は漢字・仮名の両方に表記されるという表記面での変化が観察され、この語について漢語か和語かの語意識にユレがあったことを指摘した(小川・劉<1998>、劉<1999>、劉<2000>、劉<2003>を参照)。

このような個別的な語の考察で得られた結果は、どれほど一般性をもち、どれほどAA(ト)型ないし漢語オノマトペ一般に広げられるのだろうか。また、漢語オノマトペはどのように位置づけられるのだろうか。これは大きな課題である。

そこで、本稿では、まず、これら四語以外にどのようなAA(ト)型が使われていたのかについて、奈良・平安期から近世初期頃にかけての八種の資料(31文献)を使用して概観する(2節)。また、固有オノマトペとの比較の上で、漢語オノマトペの位置づけについて検討する(3節)。

以下、1節では先行研究に基づき、漢語オノマトペの概念について確認しておく。

## 1 漢語オノマトベの概念

### 1-1 出自による分類:「固有オノマトベ」と「漢語オノマトベ」

日本語の語彙を出自によって分類すると、大きく a「和語」(本来日本語に固有のやまとことば)、b「漢語」(主として中国語からの借用語)と c「外来語」(主として西欧諸言語からの借用語)の三群となる。

この出自による分類は、オノマトベについてあたってみると、一般語の場合と事情がだいぶ異なっており、cと考えられるものが僅少である。玉村(1984)は次のように述べている(引用部分中のくゝは劉による。以下同様)。

外来語(同著では「洋語」という)の音象徴語としてはチ(ッ)クタ(ッ)ク、ジグザグがあげられるぐらいで、ほかには日本語の中で市民権を得たものはまず考えられない。この点漢語とは大いに趣を異にする。(137 ぺ)

先行研究を見る限り、雁木形を表すジグザグ[zig-zag](金田一(1978)・大坪(1989)20 ぺにも同じ)、時計の音を表すチクタク[tick-tack](同前)とチックタック[tick-tock/tick-tack](角岡(1993)146 ぺにも同じ)の3語しか指摘されていない。

一方、bについては、はやく湯澤(1931)において触れられている。次の線部のとおりである(引用部分にある各種の下線は劉による。以下同様)。

大體鎌倉期以後廣く漢語を取入れた文が行われ出してから、次第に之(同著でいう「固有の擬声語」)が避けられたのである。たとえばキラリ・ニコリと言う所を、閃々・莞爾と云い、ウツトリを恍惚とせねばならぬ様に考へた。(253 ぺ)

また、冒頭に挙げた田中(1978)、鈴木修次(1978)のほかに、例えば、金田一(1978)では「擬音語・擬態語には、もともと固有の日本語、すなわち和語のものと、中国から渡来した漢語のものがある」とあり、また、角岡(1993(146 ぺ))では「擬態語では、中国語以外からの借入はない」とあるように、bが多く存在することをより明確に指摘している。

ただし、漢語オノマトベについては、先行研究において、ほとんどが固有オノマトベを論じる際に言及される程度にとどまり、その概念や用例認定の基準について明確に述べた論考は見当たらない。このように扱われているのは、漢語オノマトベは出自の上で固有オノマトベとは違うだけで、概念の上では固有オノマトベのそれに通用し得ると認識していたからだろうか。ただ、3 節に述べるように、漢語オノマトベは固有オノマトベと全く同質的なものとして捉えきれないのである。

## 1-2 古典中国語との接点

では、漢語オノマトベの出自となる古典中国語において、どのようなオノマトベが使われているのだろうか。

古典中国語のオノマトベについて、王 (1938)、頼 (1964)、徐 (1998) などによれば、古く『詩経』(紀元前 10 c ~ 紀元前 6 c にかけて成立した古代歌謡集) の時代から主として二字語である重言型・疊韻型・双声型・接尾辞型の四パターン<sup>2)</sup> のオノマトベが使われていた。以下、『詩経』(藝文印書館・十三経注疏『毛詩正義』) から例を引く。

- (1) 關々雉鳴、在河之洲、窈窕淑女、君子好逑、參差荇菜、左右流之〔周南・關雎〕
- (2) 蕭々馬鳴、悠々旆旌〔小雅・車攻〕
- (3) 南有嘉魚、烝然罩々〔小雅・南有嘉魚〕
- (4) 桑之未落、其葉沃若〔衛風・氓〕

重言型とは、(1)「關々」(やわらいで鳴き交わす鳥の声)、(2)「蕭々」「悠々」(ゆったりと閑暇であるさま)、(3)「罩々」(群がって遊ぶさま)のように、同じ漢字を重ねるものである。疊韻型とは、(1)「窈窕」/eu deu/ (女性のしとやかなさま)のように(以下は必要な場合藤堂明保編『学研漢和大字典』により中古音を/ /で囲んで示す)、音節の最初の子音部以外は韻(eu)を踏むものである。双声型とは、(1)「參差」/tɕ 'ɾəm tɕ 'ɾɛ/ (長さがふぞろいのさま)のように、音節の最初の子音(is)が同じものである。接尾辞型<sup>3)</sup>とは、(3)「烝然」(多く盛んなさま)のように「～然」を、(4)「沃若」(みずみずしい光沢のある様子)のように「～若」をそれぞれ後部要素にしてつくったものである。

そうした中国語のオノマトベ<sup>4)</sup>が、そのまますべて日本語に受容されたわけではない。例えば、上記(1)～(4)のうち、「罩々」「烝然」「沃若」などは日本文献から用例を見いだせない(日本文献における用例の有無について『日本国語大辞典』(二版)によって判断した)。これに対して、「關々」「蕭々」「悠々」「窈窕」「參差」などは、以下の(5)～(9)に示すように、『懷風藻』や『菅家文草』にすでに確認できるので、おそらく奈良・平安期の文献を通じて日本語に受容されるようになったと考えられる。

- (5) 春花漠々鳥関々 細馬香衫閑也攀〔本朝無題詩・巻第四・215 春日遊覧(本間洋一著『本朝無題詩全注釈』新典社)〕(使用テキストを示さないものは末尾の調査資料を参照)
- (6) 碧紗窓下櫓聲幽 聞説蕭々旅雁秋〔菅家文草・巻第五・349 重陽後朝、同賦秋雁櫓聲來、酒製〕
- (7) 郷心杳々切歸想 客路悠々稀故人〔凌雲集・御製二十二首・錢朝嘉通慰問關東(小島憲之

「凌雲集詩注」『国風暗黒時代の文学 中（中）』塙書房]

(8)窈窕鳴衣玉 玲瓏映彩舟【懷風藻・53 七夕（山田三方）】

(9)參差落水 暗伴負冰之鱗【本朝文粹・卷第一・4 春雪賦（土井洋一・中尾真樹【本朝文粹の研究校本篇】勉誠出版）】

日本語のAA（ト）型の漢語オノマトベは、(5)(6)(7)に挙げた「閑々」「蕭々」「悠々」のように中国語の重言型のオノマトベが受容されたものである。AA（ト）型以外、(8)「窈窕」・(9)「參差」のような疊韻型・双声型や、前記湯澤（1931）に指摘した「莞爾」のような接尾辞型などが受容されたものもあるが、先行研究に挙げた例を見る限り、重言型<sup>25</sup>が最も多く受容されたパターンの一つと見られる（上記に諸論考では、「莞爾」〈接尾辞型〉と「鯉鯉」/・ok tɕ 'ok/〈疊韻型〉以外はすべて重言型のもの）。

## 2 日本語におけるAA（ト）型の漢語オノマトベの歴史的概観

以下、AA（ト）型の漢語オノマトベの使用状況について、上代から近世初期頃にかけての文献を使用して歴史的に概観してみる。

### 2-1 用例調査資料：八種の資料31文献

調査資料として、以下A～Hに示すとおり、奈良・平安期の漢文及び和文、鎌倉・室町期の説話集や軍記物語などの和漢混淆文、室町期の抄物、キリシタン物、狂言、その他御伽草子、謡曲など八種の資料から計31文献を選んだ。

- A 漢詩文（2点）：懷風藻 菅原道真の漢詩集（菅家文庫・菅原後集）
- B 和文（7点）：竹取物語 伊勢物語 土佐日記 宇津保物語 蜻蛉日記 枕草子 源氏物語
- C 和漢混淆文（8点）：今昔物語集 宇治拾遺物語 沙石集 覚一本平家物語 延慶本平家物語 太平記 方丈記 徒然草
- D 抄物（6点）：蒙求抄 毛詩抄 長恨歌并琵琶行抄 漢書列傳竺桃抄 史記抄 玉塵抄（前の3点は博士家関係、後の3点は五山僧関係）
- E 狂言（3点）：天正狂言本 虎明本狂言集 狂言記
- F キリシタン物（3点）：平家物語 金句集 伊曾保物語
- G 御伽草子（日本古典文学大系『御伽草子』所収28篇）
- H 謡曲集（新潮日本古典集成『謡曲集（上・中・下）』所収100曲）

## 2-2 用例対象の範囲

古典語のオノマトベについて、用例認定の基準を必ずしも容易に定められないという問題が残る。1-1 節末に触れたように、管見の限り先行研究では用例の認定基準について明確に示していないのである。今後の課題の一つとするが、現段階では、基本的に、種々の声や音または音響、状態・様子を表すと判断できるもので、次の (i) かつ (ii) の条件をそなえた例は、すべて対象としておく<sup>6</sup>。

(i)、以下に掲げる (10)～トシテや (11)～ト、または (12)～タリや (13)～タルを伴うことがあるもの、または (14) 単独に使われるもの。

山田 (1958) では「漢語の形容詞 (形容詞又は副詞として用ゐらる。) たるものが國語に入るとき、情態の副詞として待遇せらるゝ」(252 ペ) とし、また「國語にては助詞「ト」を伴ひ、又説明存在詞「タリ」を伴ふ性質のものとして収用せらる」(256 ペ) とする指摘のとおり、オノマトベを含む漢語情態副詞は～トや～タリを伴うとされている。なお、上記の資料 A「漢詩文」及びその他の資料における漢文体の部分に関しては、(10)～(14) のうちのいずれかであり得ると考えられるので、すべて採取する。また、(15)～(19) に示すように、一部～ナリ・ナルの形容動詞の例、～ニ・A Aニシテの副詞の例、～ノ (名詞)・～スルの名詞・サ変動詞の例が含まれることになる<sup>7</sup>。

(ii)、その語形 (漢字表記) が古典中国語に確認できるもの、または漢字表記でない場合 (以下の (14) (17) (19) など) でも、関連書物やテキストの頭注によって指摘された語形が古典中国語に確認できるもの。古典中国語における有無については、基本的に『大漢和辞典』(諸橋徹次著)『漢語大詞典』(羅竹風主編) のいずれかの見出し項目における掲載の有無による。

- (10) 八つの谷 gagato xite (峨々として) そびえ、biôbiôto xite (渺々として) 限りもなう。[天草本平家物語・巻四 (311-12)] (当該語のみ原文で示す。以下同様)
- (11) 耿々トホノカナル残ノ燈ノ壁ニ背ル影、嘯々ト閑ナル閑雨ノ窓ヲ打音ノミ友トナリ、春ノ日遅シ。[延慶本平家物語・第二末・二・文学が道念之由緒事 (上 462 ペ)]
- (12) 胸を焦がす炎 咸陽宮の煙紛々たり [謡曲集・安達原 (上 76 ペ+ 4)]
- (13) 兩眼ヲ開キテ御覽ずれば、まんまंतर砂の地にぞ著き給ふ。[御伽草子・梵天圖 (275 ペ)]
- (14) 曹操ガ、連々融ヲ、イタニ思タニ。[兼求抄+2ウ]
- (15) 公事そうそうにして、しばしば取り申さねば、疎かなるやうになむ。[宇津保物語・沖つ白波 (二 312 ペ)]

(16)ソノ儀式・作法、巍々ニシテ心ノ及ブ所ニ非ズ。〔今昔物語集・卷一・満財長者家仏ノ行給語第十三（一44ベ）〕

(17)戒相ハ誠ニ明々ナレトモ、威儀ハコトノ外ニ散々ノ事ニコソ。〔沙石集・卷三・律學者之學與行相違事・8ウ（136ベ）〕

(18)此時若緩々ノ沙汰ヲ致サバ、大逆ノ基ト成ヌベシ。〔太平記・卷第十・新田義貞謀反事付天狗僅越後勢事（二125ベ）〕

(19)人丁が酒に酔て水にたふれ入、装束をぬらし、御神樂に遅々したりけるに。〔寛一本平家物語・卷第六・祇園女御（上420ベ）〕

ほかに、(20)「眇々」のようにテキストの校注者により、訓読みとされた語についても用例として採取することがある。

(20)東行西行雲眇々、二月三日遅々〔菅家後集・477 詠楽天北窓三友詩〕

## 2-3 調査の結果

以上に述べた方針で、多分に主観的な認定となったが、上記A～Hの31文献から計158語633例検出した（使用テキストは調査資料④を参照）。なお、用例採取の際、資料Bについては柏谷（1987）により（同著ではこの7文献における漢語を精査し一覧してある）、DとHについては劉の調査による。それ以外は索引類（調査資料④に示す）を参照した。

A～Hにおける使用状況をまとめると（各資料の詳細は附表を参照）、次の表のようになる。

【表】日本文献におけるAA（ト）型のオノマトベ

|             | A漢詩文 | B和文 | C和漢混淆文                 | D抄物 | E狂言 | Fキリシタン物 | G御伽草子 | H謡曲集 |
|-------------|------|-----|------------------------|-----|-----|---------|-------|------|
| 異なり<br>158語 | 65   | 3   | <u>12   73</u><br>76   | 71  | 10  | 10      | 17    | 20   |
| 延べ<br>633例  | 117  | 3   | <u>21   199</u><br>220 | 185 | 16  | 29      | 24    | 39   |

（※Cでは上段に説話集・軍記物語の語数を、下段に両者の合計を記す）

上の表に基づいて、AA（ト）型の使用状況を以下の諸点からまとめてみる。

ア、資料A～Hにおける用例の多寡：

八種の資料における用例の多寡は見られるが、全体として、A奈良・平安期の漢詩文、及び一般に漢語の多用とされるC和漢混淆文とD抄物において用例が多い。これに対して、B平安和文、E狂言、Fキリシタン物、G御伽草子においては用例が少ない<sup>8</sup>。具体的に、延べ語数（用例数）の多い順でC—D—A—H—F—G—

E-Bとなっている。異なり語数においても、ほぼ同じで、C-D-A-H-G-E・F-Bとなっている（ただ、A~Hにおける文章量はそれぞれ均一的ではないので、用例の多寡は絶対的なものとはいえない）。

#### イ、用例数の多い順で上位 21 語

八種の資料から得た 158 語のうち、一語一例は 77 語ある。これに対して、以下に掲げるように、用例数の多い順で上位 21 語の場合は、すべて 7 例またはそれ以上用例をもつ。ここに、「茫々」・「芒々」・「沱々」・「忙々」などのように、同一語の異表記または関連する語同士を〔 〕中にあわせて示す（この場合に一語として数えるが、用例数はそのうちの最も多い方に準じて順位をつける。例えば③は「茫々」29 例に準じて三位につけるなど）。この 21 語の用例総数を数えると、390 例になる。つまり、八種の資料から得た 633 例のうち、約六割強は使用頻度が 7 またはそれ以上に達している。

- ①悠々 50 ②漫々 45〔満々 1〕 ③茫々 29〔芒々 1・沱々 1・忙々 1〕 ④峨々 26 ⑤歴々 20 ⑥蕭々 17〔嘯々 1〕 ⑦颯々 16 ⑧濛々 16〔蒙々 11・朦々 2・矇々 1〕 ⑨眇々 14〔眇々 14〕 ⑩遲々 13 ⑪紛々 13 ⑫平々 12 ⑬片々 12 ⑭明々 11 ⑮冥々 11 ⑯連々 10 ⑰忿々 9〔忽々 1〕 ⑱魏々 9〔魏々 1〕 ⑲森々 7 ⑳濟々 7 ㉑滔々 7

ウ、21 語の八種の資料 A~H における共通状況：

七種：颯々 六種：悠々 漫々 茫々 峨々

五種：眇々〔眇々〕 遲々 冥々 連々 忿々

四種：蕭々 濛々 紛々 平々 片々 明々 魏々 濟々 滔々

三種：歴々 森々 二種：〔朦々〕

一種のみ：〔満々〕〔芒々・沱々・忙々〕〔嘯々〕〔蒙々・矇々〕〔忽々〕〔魏々〕

エ、古辞書類（調査資料②）における掲載の有無：

附表に示すように、158 語のうち、平安時代の『色葉字類抄』（前田本・黒本本）、室町時代の『文明本節用集』・『運歩色葉集』（元龜二年京大本・静嘉堂文庫本）・『落葉集』・『日葡辞書』のいずれかに語形の確認できる語は 66 語ある（附表に◎や○で記す）。上記 21 語がすべてその中に含まれる。

本節では、奈良・平安期から近世初期頃にかけての八種の資料（31 文献）を調査した結果、計 158 語 633 例を得た。そのうち、21 語（延べ 390 例）が各時代の多くの文献に現れ、古辞書類に掲載されている。このことから、AA（ト）型の受容が進んでいることを指摘できる（個別的な考察でとりあげた「颯々（ト）」などの四語は 21 語中前八位に位置し、四種またはそれ以上の資料に使われており、しかも一貫して古辞書類に掲載されている）。



### 3 漢語オノマトベの位置づけ

2 節での調査で、上代から近世初期頃までの文献より計 158 語の AA (ト) 型を検出できた。そのうち、どれほど現代語に受け継がれてきただろうか。現行の小型国語辞書（見出し項目 7 万ほど）、例えば『角川国語辞典』（六十二版 1982 久松潜一・佐藤謙二編）、『三省堂国語辞典』（四版 1996 見坊豪紀・金田一京助・金田一春彦・柴田武・飛田良文編）にあたってみると、そのうち 72 語がこれら辞書の見出し項目に挙げられている（附表の備考欄に#印や\*印で記す）。このことから、すなわち近世初期頃までに使われていた AA (ト) 型のうち、約半分が現代語の中に脈々と息づいていると考えられる。

ところで、1-1 節末に触れたように、漢語オノマトベは固有オノマトベとは同質的なものではない。以下、固有オノマトベとの比較の上で、漢語オノマトベの位置づけについて検討を加える。

#### 3-1 固有オノマトベに対する二次的存在

##### 3-1-1 二次的存在とする捉え方

固有オノマトベは音象徴そのものによって成り立つ。これに対して、漢語オノマトベはほとんどが古くから漢詩文を通して受容されてきたため、漢字表記からなかなか切り離されない。この漢字表記の存在が大きく使用者の意識を左右することになり得る。そのため、使用者は漢語オノマトベの多くに対して、それなりに音との繋がりを感じる。一方で、そうした漢字表記が介在していることによって、純粋に音象徴という基準で考えれば、固有オノマトベと全く同一視はできないだろう。この意味では、固有オノマトベに対していえば、漢語オノマトベは特殊なスタイルをもつ、二次的なオノマトベであるというように捉えられる。

具体的に、例えば、筆者が個別的な考察としてとりあげた「颯々 (ト)」・「茫々 (ト)」・「濛々 (ト)」・「悠々 (ト)」の四語を例にして、以下(21)～(24)における現代小説の例をそれぞれ類似する意味をもつ固有オノマトベに置き換えてみると、それぞれ参考例 cf. のようになる。

(21) 答えるものは、颯々と梢をわたる風の音のみであった。[田辺聖子・新源氏物語]  
cf. しかし答えるものは、さわさわと梢をわたる風の音のみであった。

(22) あとはただ茫々と白くけむるばかりの雪野のなかの湯の宿であった。[三浦哲郎・忍ぶ川]

cf. あとはただもやもや白くけむるばかりの……。

(23) ほんとうに朦々としてきた半月のような眼でぼくはあたりをみまわした。[倉橋由美子・聖少女]

cf. ほんとうにぼんやりしてきた半月のような眼で……。

(24) 空には何事もなかったように雲が悠々と流れていた。[有吉佐和子・華岡青洲の妻]

cf. 空には何事もなかったように雲がゆったりと流れていた。

cf. のように書き換えられても、必ずしも非文とはいえない。ただ、元の文と比較すると、文全体としてのイメージが変わってくるだろう。使用者または読者によっては違和感（「もやもや」がそこに現れると不釣り合いであるとか）さえ感じてしまう場合もある。それは、使用者または読者がこれらの漢語オノマトペを、「さわさわ」「もやもや」「ぼんやり」「ゆったり」などの固有オノマトペと同じものとしては認識していないためだと考える。しかし一方では、例えば (24) を「雲が緩慢に流れていた」などのように書き換えられても、「雲が悠々と流れていた」に比して大した変化がないとはいえないだろう。というのも、「悠々と」は「緩慢に」のような実質的な意味しかもたない漢語とはまた違ったものとして受け止められているわけで、「ゆったりと」並みではないにしろ、それなりに音象徴性を感じているからであろう。

### 3-1-2 文体的役割

では、これら二次的存在としての漢語オノマトペが、どのような文体（文章語的な文・口語的な文）に使用されやすいのか、また、それがどのような役割をもつもので、それを使用することによってどのような文体（の文）ができあがるのかを、かりに「文体的役割」と呼ぶことにする。これについて、以下に先行研究を紹介しながら触れておきたい。

漢語オノマトペと固有オノマトペとを比較する立場から、両方の文体的役割を指摘した論考として、湯澤（1931）が挙げられる。以下のとおりである。

擬聲語は口語では右の様な形（固有オノマトペの音形パターン）をとることが最も多いが、文語に於いても大體同様である。その取扱方を概観すると、古くはわが文學の上にも普通に現れて居たが、大體（ここから 1-1 節に引用した部分にあたるので省いた）。即ち國は一時、漢語・漢字の中毒者になり、固有の擬聲語を忌避するに至つたのである。徳川時代に入つて平民文學が起るや、この重患から脱する者も現れたが、慢性患者は尚すこぶる多かつたのである。それ等の關係から現に今でも、いわゆる文語體の文ではこの病症が残つて居て、惰性の力は恐しいもの、

斷乎・判然・洋々の様な語を用いねば學に疎い様な感を与え、ウンザリ・ガツカリの様な語を用いると、文章として品位を低うしたものと思われる様になったのである。（略）口語においては各時代とも、依然として固有の擬聲語の盛んに用いられたことは、疑いのないところで、いろいろな資料によつて、容易に証明し得るのである。（253 べ～ 254 べ）

以上の指摘によれば、漢語オノマトベは、\_\_\_\_\_線の部分にあるように、「文語體の文」つまり文章語的な文に多用されるのに対して、固有オノマトベは、\_\_\_\_\_線の部分にあるように、「口語」つまり口語的な文に多用されるとわかる。

ただ、漢語オノマトベの使用については、同著は「重患」や「病症」や「恐ろしいもの」（上記引用中の\_\_\_\_\_線の部分）といったようにマイナスの評価をしていると見られる。これに対して、坪井（1991）はプラスの一面を捉えている（次の\_\_\_\_\_線の部分）。

これらの「漢語」音象徴語〈同著でいう中国語起源の外來音象徴語彙〉の特異な点は、その情感の差異が、我々日本人にとって、決して違和感を与えるだけのマイナスの価値を持つものではなく、漢語ないし漢文体がもつ端正で典雅な文体的価値を添える働きをなしている点にあると言えよう。（45 べ）

文体的役割においては、漢語オノマトベと固有オノマトベとはそれぞれ異なっているはずである。漢語オノマトベは、そもそも奈良・平安期の漢詩文から出発し、歴史的文化的な交流の産物として存在するものである。そのため、「文語體の文」に用いられることが、本来漢語オノマトベのあるべき姿であって、「重患」や「病症」や「恐ろしいもの」（湯澤同著）といったものではない。それこそ、「漢語ないし漢文体がもつ端正で典雅な文体的価値を添える働きをなしている」（坪井同著）ものとして評価すべきだろう。同様に、固有オノマトベの場合、「口語においては各時代とも、依然として固有の擬聲語の盛んに用いられた」（湯澤同著）となることが、本来固有オノマトベのあるべき姿である。場合によって、「固有の擬聲語を忌避する」（湯澤同著）ことが行われていても、漢語オノマトベが（体系的に）固有オノマトベにとってかわることは不可能である。同様に、固有オノマトベがまた漢語オノマトベにとってかわることも可能ではない。

要するに、文体的役割において、両者の間に優劣の差は存在しない。固有オノマトベがより口語的・具体的な場面で用いられるのと違って、漢語オノマトベは主として文語的・文学的に用いられるというように、使用領域を分担することによって共存をたもち、相互補完的な存在であると考ええる。

ところで、以下に述べるように、漢語オノマトベのうちにも、時代とともに一次化つまり固有オノマトベへの合流が生じるものがある。

### 3-2 一次化（固有オノマトベへの合流）

ここで、使用者の語意識の変化つまり本来の出自というより、漢語オノマトベと意識するか・固有オノマトベと意識するかという観点から考える。ある時代になると、使用者にとって、漢語としてでなく、あたかも元来固有オノマトベであるかのように意識され、固有オノマトベの中に溶け込んでいくということを、ここで一次化あるいは固有オノマトベの合流と呼ぶことにする。

例えば、以下に示すように、「颯々(ト)」・「茫々(ト)」・「濛々(ト)」・「悠々(ト)」の四語は、「ざあざあ」や「ぞんぞん」など固有オノマトベをおさめるはずのオノマトベ辞典に掲載されてしまっている。このことは、現代人にとって、これら四語について、漢語としてでなく、あたかも元来固有オノマトベであるかのように意識されて、一次化が進んでいるということを示しているのだろう。

(25) くつもズボンのすそもずぶぬれ。だがまったく気にするようすもなく、さっ

さっと歩き続ける。[天沼(1974)・サンケイ新聞・昭和48.2.18]

(26) 草がぼうぼう茂ったたんぼが、どれほど農民の心をすさませることか……。[同

・朝日新聞・昭和48.4.3]

(27) ドカンという音とともに、もうもうと黒煙が上がった。[浅野(1978)]

(28) 「ゆうゆう あわてず落ち着いているさま。十分余裕があるさま。yuyu

Describes behaving confidently. Calmly. With plenty of leeway. [五味(1989)]

ただし、こうして語意識の変化に伴って一次化されていくということは、必ずしもすべての漢語オノマトベにおいて起こり得るわけではない。次の a・b の二つの要素が重なった時こそ一次化が進行しやすいのではないかと考える。

a 音形的な面：当該語が、固有オノマトベに有する音形パターンに合致している。

b 表記的な面：当該語が、しばしば仮名表記されている。

このうち、a は一次化を生じさせる誘因で、不可欠な要素である。b は a によって現れるが、逆に一次化を助長させる要素となる。「颯々(ト)」などの四語についてみると、それぞれは固有オノマトベにおける「四拍反復型」という音形パターン

（鈴木雅子（1973、1984）にいう「語基二音節反復くX Y X Y型：上代」「語末長音反復くXウXウ型：中古」「語末促音反復くXッXッ型：中世」「語末撥音反復くXンXン型：中世」の四つ。時代は同著に指摘した初出の時期）にあてはまる。すなわち、「颯々（ト）」はXッXッ型（「チャッチャット」の類）に、「茫々（ト）」「悠々（ト）」「濛々（ト）」の三語はXウXウ型（「チャウチャウト」の類）にそれぞれあてはまるわけであり、しかも、いずれも抄物をはじめとする中世文献において仮名表記されているのである（詳細は拙論を参照されたい）。

一次化のプロセスは概ね次のようにまとめられよう。すなわち、そもそも奈良・平安期の漢詩文を通じて受容された漢語オノマトベは、漢字表記本位の文献において漢字で表記されていた。時代が降って、軍記物語や抄物をはじめとする漢字・仮名交じりの中世文献に使われると、そうした固有オノマトベに有する音形パターンに合致しているもの（前記の要素a）について、使用者が文字よりもその音感の方に関心をもつようになり得る。例えば、「颯々（ト）」や「悠々（ト）」について、sassa (to) や yu:yu:(to) という音形でその字がもつ本来の意味（「颯」は「風の声」、「悠」は「遠也」「遐也」「思也」「憂也」）よりも、音感の方が注意されやすくなる。それによって、より音感が読みとりやすい仮名表記が行われるようになる。仮名表記されるにつれて、さらに、元来書かれるべき漢字との繋がりが薄れて、その上意味変化（前述したように意味の消失や限定）が生じる。そして、次第に使用者にとって本来は漢語であるかどうかの意識が希薄になり、固有オノマトベと意識されるようになる。

この漢語オノマトベの一次化が、漢語全般にわたって生じているいわゆる「国語化」（「和語化」などとも）という現象が背景にあると考えられる。前田（1983）では、漢語副詞一般における「国語化」について、次のような指摘がある。

しかし、漢語副詞は和語副詞と出自を異にすることにより、位相的に使い分けられていたとばかり言えない。一部の漢語副詞は、語源も忘れられ、語義も変わり（語義の変化はどの漢語副詞においても大なり小なり認めざるをえないが）、漢語副詞であることの徴表とも言える漢字表記までも曖昧になって国語の中に溶け込んでいった。（376 ぺ）

一般語の漢語副詞における「国語化」（ここでいう「一次化」）においては、オノマトベの場合と同じく「漢字表記までも曖昧にな」ること（前記の要素bに共通する）が要素の一つとなるが、オノマトベの一次化においては、一般語の場合に普通あり得にくい上記aが決定的で、必要不可欠な要素である。

本節で述べたように、固有オノマトベに対して、漢語オノマトベは特殊なスタイルをもつ、二次的存在であるといえる。しかし一方、漢語オノマトベはいつまでも二次的な存在でしかないというわけではない。その一部は、かつての日本の文化史的背景における漢詩文的な教養の世界を離れて、中でも音形上固有オノマトベがもつパターンに合致するものが、次第に漢語ではなく固有オノマトベと意識されるようになり、一次化つまり固有オノマトベへの合流が生じていく。

なお、二次的存在と一次化との間に、截然と線を引くことはできない。「颯々(ト)」などの四語については、室町期においてすでに一次化が始まっていると見られるが、現代語に至って完全に二次的存在でなくなったとは言い切れないだろう。つまり、一次化(固有オノマトベへの合流)を瞬間的変化としてではなく、一つの連続的な変化の過程、変化の傾向として捉えておきたい。

#### 4 おわりに

本稿の主旨は以下のようにまとめられる。

AA (ト) 型の漢語オノマトベについて、上代から近世初期頃にかけての八種の資料(31 文献)から計 158 語 633 例を得た。そのうち、21 語(延べ 390 例)が各時代の多くの文献に現れ、古辞書類に掲載されているように、AA (ト) 型の受容が進んでいることを指摘できる。一方、純粹に音象徴によるという基準で考える時に、漢語オノマトベは漢字表記の介在により固有オノマトベとは同一視できない、二次的存在として位置づけられる。ただ、そのうち、固有オノマトベが有する音形パターンに合致しているもので、次第に使用者にとって漢語でなく固有オノマトベと意識されるようになり、一次化(固有オノマトベへの合流)が生じる。

#### 注

- \*1 管見の限り、名称について触れた先行研究として次のとおり：天沼(1974<21 べ>・金田一(1978)「漢語の擬音語・擬態語」、玉村(1979<149 べ>)「音象徴語の漢語」、玉村(1984<130 べ>)「漢語の音象徴語」、角岡(1993<145 べ>)「擬似オノマトベ」。
- \*2 これら二字語のオノマトベ以外、「月出皎兮、佼人僚兮」(詩経・陳風・月出)、「君在、踞踞如也、與々如也」(論語・郷黨)、「戰々兢兢、如臨深淵、如履薄冰」(詩経・小雅・小旻)などに見るように、一字・三字・四字のオノマトベがある。ただ、基幹は一字または二字で、三字は一字プラス二字であり(「疊韻・双声・重言+虚辞・接辞」とか「一字+重言」)。

四字は二字の重ねである（「重言+重言」など）という（頼〈1964〉391 頁～92 頁）。

- \*3 「接尾辞型」については、厳密に、二種類すなわち「然然」のように「虚辞」の「～然」を伴う「虚辞型」と、「沃若」のように「接辞」の「～若」を伴う「接辞型」とにわけられる。ほかに、「虚辞」としては次の(1)「～爾」・(2)「～焉」・(3)「～乎」とか、「接辞」としては(4)「～如」とかある（王〈1938、1958〉などによる）。

(1) 莞爾而笑曰（論語・陽貨） (2) 瞻之在前、忽焉在後（同・子罕）

(3) 確乎其不可拔（周易・乾） (4) 有美一人、婉如清揚（詩經・鄭風・野有蔓草）

- \*4 中国語においては、日本語と違って、伝統的にオノマトベを語彙レベルでなく「擬声法」と「絵景法」という修辞法の中で認識されていること（王〈1938〉384 頁～386 頁）とか、重言型における「実義詞化」（徐〈1998〉219 頁）によりオノマトベの認定の難しさとかいうような問題があるが、詳細は王（1938）や徐（1998）を参照されたい。

- \*5 筆者は、重言型について『文選』と『白氏文集』を使って用例調査を行ったところ、計 487 語 2222 例を得た（紙幅の都合上用例の一覧は割愛した）。そして、そのうちの 481 語について『日本国語大辞典』（二版）の見出し項目に確認されているわけで、日本語に受容された可能性があると考えられる。

- \*6 ただ、以下の(1)～(4)の場合は用例としない。(1)は、今昔物語集において先行文芸である菅家後集の詩句（前掲(20)）をそのまま引用している。(2)～(4)は、抄物に特有の構文における用例である（詳細は劉〈2003〉を参照されたい）。

- (1) 今昔、天神ノ作ラレセ給ケル詩有り。

東行西行雲渺々 二月三月日遅々

ト。此詩ヲ後代ノ人詠テ詠ズト云ヘドモ。〔今昔物語集・卷二十四・天神、御製詩読示人夢給語第二十八回四436 頁〕

- (2) 単純引用：

青々子衿 悠々我心（鄭風・子衿）

青——（略）学院ニ語テモ慰ウ物ヲト、ソレヲ歎ク程ニ悠々ト云ソ。〔毛詩抄四41 頁〕

- (3) 文選読：

遅々ハ、ユウユウトノトカナ体ソ。〔毛詩抄八4ウ〕

- (4) いわゆる「提示語」：

悠々ト云ハ、如何ニモ悲ム言也。〔慶長版長恨歌抄 29 頁〕（上の(3)の「遅々」も同様）

- \*7 (15)「そうそうにして」などを用例としたのは、～ニシテ以外～トや～クリを伴う例を検出したからである（附表を参照）。～トや～クリを伴う例を見ない語については、用例としない。附表「備考欄」に cf. と記した「諤々 玄々 煌々 節々 泛々 碌々」の 6 語である（後の 158 語の中に数えない）。ただ、実際、そのうちの「諤々」「煌々」がオノマトベであることが、田中（1978）などに指摘されているのである（冒頭の引用を参照）。

- \*8 B和文(7点)のうち、宇津保物語(1語1例)、枕草子(1語1例)、源氏物語(1語1例)以外では用例を検出できない。C和漢混淆文(8点)のうち、宇治拾遺物語・方丈記・徒然草から用例を検出できない。E狂言(3点)のうち、虎明本(10語14例)及び狂言記(2語2例)に用例が見られるが、天正本から用例を見出せない。Fキリシタン物(3点)のうち、平家物語(10語27例のうち「歴々」が13例)及び伊曾保物語(2語2例)に用例が見られるが、金句集から用例を見出せない。

参考文献(本稿で引用・言及のあったもののみ)

- 浅野鶴子(1978)『擬音語・擬態語辞典』角川書店  
天沼寧(1974)『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版  
大坪併治(1989)『擬声語の研究』明治書院  
王力(1938)「第三十六節 擬声法和繪景法」『中国語法理論』(山東教育出版社1984『王力文集』第1巻収録)  
王力(1958)「第三十八節 形容詞和副詞的發展」『漢語史稿』(山東教育出版社1988『王力文集』第9巻収録)  
小川栄一・劉玲(1998)「漢語と和語のオノマトベ語彙の関わり——「颯々(と)」と「さっさつ」との関係を中心に——」『福井大学教育学部紀要第Ⅰ部人文科学(国語学・国文学・中国学編)』第49号  
柏谷嘉弘(1987)『日本漢語の系譜——その摂取と表現——』東苑社  
角岡賢一(1993)「日本語の「擬似オノマトベ」——日本語と中国語の接点——」寛壽雄・田守育啓編『オノマトピア 擬音・擬態語の楽園』勁草書房  
金田一春彦(1978)「擬音語・擬態語概説」浅野鶴子編『擬音語・擬態語辞典』角川書店  
五味太郎(1989)『英語人と日本語人のための日本語擬態語辞典』The Japan Times 出版  
徐浩(1998)「現代漢語ABB詞及其歴史演變」北京大学中文系『語言学論叢』編委会編『語言学論叢』第20輯、商務印書館  
鈴木修次(1978)「擬態語の中の漢語」『漢語と日本人』みすず書房  
鈴木雅子(1973)「擬声語・擬態語一覧」『品詞別日本文法講座』巻10(「資料1」)、明治書院  
鈴木雅子(1984)「擬声語・擬音語・擬態語」『研究資料日本文法④修飾句・独立句編』明治書院  
田中章夫(1978)「擬音語と擬態語」『国語語彙論』明治書院  
玉村文郎(1979)「日本語と中国語における音象徴語」『大谷女子大学国文』9号。後に



大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』くろしお出版  
（1992）に再録。

玉村文郎（1984）「6-3 音象徴語」「語彙の研究と教育（上）」国立国語研究所・日本語  
教育指導参考書 12

飛田良文・浅田秀子（2002）『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版

前田富祺（1983）「漢語副詞の変遷」「国語語彙史の研究」四、和泉書院

山田孝雄（1958）『国語の中に於ける漢語の研究（訂正版）』寶文館

湯澤幸吉郎（1931）「擬聲語の収集」「国語教育」10。後に勉誠社（1979）復刻「著作  
集 1 国語史概説」（八木書店 1943 三版による）に再録。

頼惟勤（1964）「漢語のオノマトペア」「言語生活」4。後「頼惟勤著作集Ⅱ 中国古典  
論集」汲古書院（1989）に再録

劉玲（1999）「茫々の擬音・擬態語用法の発生」北京日本学研究中心『日本学論叢』X

劉玲（2000）「「モウモウ（ト）」の漢字・仮名表記とその背景——漢語らしさと和語らしさ  
をめぐって——」東京都立大学国語国文学会『都大論究』37 号

劉玲（2003）「漢語情態副詞「悠々（ト）」の受容のありかた——室町期抄物資料における「被  
注釈語」・「注釈語」としての使用を通して——」「国語学」第 54 巻 2 号

【附表】本附表では調査資料①に挙げる 31 日本文献における AA（ト）型の使用状況を示している。

凡例：(1)古辞書類（調査資料②）に掲載される場合は◎をつける（異体字の類を含む）。  
その一部が見える場合（例えば「歴々」について「歴々然」が掲載されている）は○を  
つける。(2)備考欄に cf をつける語は、～トまたは～タリの例が今回の調査資料から検  
出できない。(3)3 節冒頭に記した二辞書の見出し項目に掲載される語に備考欄に井で記  
し、見出し項目の一部に見える場合（例えば「喧々」について「喧々諤々」が見える）  
に＊で記す。(4)用例数の示し方：漢字表記と仮名表記の両方が見られる場合に、漢字  
表記例 | 仮名表記例 のように示す。漢字表記例のみの場合はそのまま用例数を記すが、  
仮名表記例のみ場合は「0 | 仮名表記例」のように示す。なお、キリシタン物におけ  
る用例は仮名表記として数える。その他の記し方は以下のとおりである。

算用数字—— 単独または～ト・～トシテを伴う用例数

丸数字—— ～タリ・～タルを伴う用例数

算用数字に〰線を引いてある—— ～ニ・～ニシテを伴う用例数

四角内の算用数字—— ～ナリ・～ナルを伴う用例数

斜体の算用数字—— 単独または、～ノか～スルを伴う用例数

| 資料<br>見出し語 | A<br>漢文   |          | B<br>平安和文 | C 和漢語文<br>漢記 |        |         |          | D 抄物      |          |          |          |          |        | E<br>狂言  | F<br>キリシタン物 | G<br>御伽草子 | H<br>謡曲集 | 古辞書類     |          |        |       |     | 備考 |      |            |
|------------|-----------|----------|-----------|--------------|--------|---------|----------|-----------|----------|----------|----------|----------|--------|----------|-------------|-----------|----------|----------|----------|--------|-------|-----|----|------|------------|
|            | 懷風藻       | 菅原道真     |           | 今昔物語集        | 沙石集    | 覚一本平家物語 | 延慶本平家物語  | 太平記       | 長恨歌抄     | 歌求抄      | 毛詩抄      | 漢書列傳三抄   | 史記抄    |          |             |           |          | 玉塵抄      | 色葉字類抄    | 文明本節用集 | 運歩色葉集 | 落葉集 |    | 日葡辞書 |            |
|            |           |          |           |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      |            |
| 総計         | 異なり<br>延べ | 11<br>14 | 56<br>103 | 3<br>3       | 5<br>8 | 7<br>13 | 18<br>35 | 49<br>111 | 36<br>53 | 11<br>18 | 20<br>33 | 17<br>49 | 5<br>6 | 16<br>22 | 31<br>57    | 10<br>16  | 10<br>29 | 17<br>24 | 20<br>39 | 30     | 20    | 20  | 15 | 37   | 158<br>633 |
| アイアイ       | 哀々        |          |           |              | 1      |         | 1        |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 2          |
| 〃          | 愛々        |          |           |              |        |         | 1        |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     | ○  |      | 1          |
| 〃          | 藹々        |          | 2         |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       | ○   |    |      | 2 #        |
| アンアン       | 暗々        |          |           |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          | ①        |        |       |     | ○  |      | 1※ #       |
| 〃          | 黯々        | 1        |           |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1          |
| イイ         | 依々        | 2        | 1         |              |        |         | 1        |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 3          |
| インイン       | 殷々        |          | 1         |              |        |         |          |           | ①        |          |          |          |        | ①        |             |           |          |          |          | ○      | ○     |     |    |      | 2 #        |
| ウツウツ       | 鬱々        |          | 1         |              |        |         |          |           |          |          |          | 1        |        |          | 0/1         |           |          |          |          | ○      |       |     |    | ○    | 3 #        |
| エイエイ       | 裔々        |          |           |              |        |         | 1        |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1          |
| 〃          | 營々        |          | 2         |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          | ○      |       |     |    |      | 2 #        |
| エキエキ       | 突々        |          |           |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          | 1           |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1          |
| エンエン       | 炎々        |          |           |              |        |         | ①        |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        | ○     |     |    |      | 1 #        |
| 〃          | 宛々        |          |           |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        | 1        |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1          |
| 〃          | 厭々        |          | 1         |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1          |
| 〃          | 詭々        |          |           |              |        |         |          |           | 1        |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1          |
| オウオウ       | 汪々        |          | 1         |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1          |
| 〃          | 嚙々        |          |           |              |        |         |          |           |          |          |          | 0/2      |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 2          |
| カカ         | 呵々        |          | 1         |              |        |         |          |           |          |          |          |          |        |          |             |           |          |          |          |        |       |     |    |      | 1※ #       |
| ガガ         | 峨々        |          |           |              |        | 2④      | 4④       | 1         |          |          |          |          |        |          |             | 1①        | 0/4      | 0/2      | ③        | ○      |       | ○   |    | ○    | 26 #       |
| カクカク       | 赫々        |          |           |              |        |         |          |           |          |          |          | 1        |        |          |             |           |          |          |          | ○      |       |     |    |      | 1 #        |

|         | 懷 | 管 | 平   | 今 | 沙 | 覺  | 延 | 太 | 長   | 藪 | 毛 | 漢   | 史   | 玉   | 狂 | キ   | 御   | 謠 | 色 | 文 | 運 | 落 | 日 | 備考     |
|---------|---|---|-----|---|---|----|---|---|-----|---|---|-----|-----|-----|---|-----|-----|---|---|---|---|---|---|--------|
| ガクガク 誇々 |   |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   | 1   |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1cf #  |
| カツカツ 活々 |   |   |     |   |   |    |   |   | 011 |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   | ○ |   |   | 1      |
| カンカン 寛々 |   |   |     |   |   |    |   |   | 1   |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1      |
| 〃 緩々    |   |   |     |   |   | 1  | 1 |   | 1   |   |   |     |     |     |   |     |     |   | ○ |   | ○ |   | ○ | 2 #    |
| キキ 祁々   |   |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     | 1   |     |   |     |     |   | ○ |   |   |   |   | 1      |
| 〃 熙々    |   |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   | 1   |     |     |   |     |     | ○ | 熙 |   |   |   |   | 1      |
| ギギ 巍々   |   |   | 1   |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1※     |
| 〃 巍々    |   |   | 2 1 |   |   |    | ① |   |     |   |   |     |     |     |   |     | 1 2 | ○ | ○ |   |   |   | ○ | 8 #    |
| 初々初 汲々  | 1 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1 #    |
| 〃 赴々    |   |   |     |   |   | 1  |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1      |
| 〃 翕々    |   |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   | 1   |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1※     |
| 初々初 悅々  | 1 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   | 思 | 1      |
| 〃 競々    | 2 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     | ○ |   |   |   |   |   | 2 #    |
| クク 區々   | 3 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     | ○ |   |   |   |   |   | 3 #    |
| ケイケイ 脛々 | 1 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1※     |
| 〃 袞々    | 1 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1      |
| ケンケン 喧々 | 1 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1 *    |
| 〃 鹵々    |   |   |     |   | ① |    |   |   | 011 |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   | ○ | 2※     |
| ゲンゲン 玄々 |   |   |     |   |   |    |   |   | 1   |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   | ○ |   | 1※cf   |
| ゴウゴウ 咬々 | 1 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     | ○ |   |   |   |   |   | 1      |
| 〃 浩々    |   |   |     |   |   |    |   | 1 |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   | ○ |   | 1 #    |
| 〃 皎々    | 1 |   |     |   |   |    | ① |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 2      |
| 〃 皓々    |   |   |     |   | 1 | ①  |   |   |     |   |   |     |     |     |   | 011 |     |   |   |   |   |   |   | 3 #    |
| 〃 煌々    |   |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     | 1   |   |     |     |   |   |   |   |   | ○ | 1 cf # |
| 〃 耿々    | 1 |   |     |   |   | 1① |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   | ○ | 3 #    |
| 〃 廣々    |   |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     | 011 |   |     |     |   |   |   |   | ○ | ○ | 1※     |
| 〃 曠々    |   |   |     |   | ① |    |   |   |     |   |   |     | 1   |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 2      |
| ゴウゴウ 噉々 | 1 |   |     |   | 1 | 1  |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     | ○ |   | ○ |   |   |   | 3      |
| 〃 轟々    |   |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   | 1   | 011 | 3   |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 5 #    |
| ゴツゴツ 忽々 |   |   |     |   |   |    |   |   | 1   |   | 1 |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 2      |
| サクサク 索々 |   |   |     |   | ① | 1① |   |   |     |   |   | 111 |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 5 #    |
| 〃 噴々    | 1 |   |     |   |   |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |     |     |   |   |   |   |   |   | 1 #    |

|          | 懐  | 菅   | 平 | 今 | 沙   | 覚   | 延   | 太 | 長   | 豊   | 毛   | 漢 | 史 | 玉   | 狂   | キ   | 御   | 語    | 色 | 文 | 運 | 落 | 日   | 備考   |
|----------|----|-----|---|---|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|---|---|-----|-----|-----|-----|------|---|---|---|---|-----|------|
| サッサツ 颯々  | 2  |     |   |   |     | ①   | 1   |   | 011 | 011 | 011 |   |   |     | 012 | 011 | 017 | 1(2) |   |   | ◎ |   | ◎   | 16 # |
| サンサン 惨々  | 1  |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| シシ 孳々    |    |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   | 1 |     |     |     | 1   |      |   |   |   |   |     | 2    |
| シツシツ 瑟々  | 2  |     |   |   |     |     | 1   |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 3    |
| シッシツ 叱々  | 1  |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| シャシヤ 洒々  |    |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   | 1 |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1※ * |
| シャガヤ 灼々  | 1  |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| ショガユウ 習々 |    |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   | 1   |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| 〃 脩々     | 1  |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| ショウウ 蕭々  | 11 |     |   |   |     |     | ②   | ② |     |     |     | 1 |   |     |     |     | ①   |      | ◎ |   |   |   |     | 17 # |
| 〃 囁々     |    |     |   |   |     |     | 1   |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1※   |
| ジョガノウ 瀼々 |    |     |   |   |     |     | 2①  |   |     |     |     |   |   | ①   |     |     |     | 1    |   |   |   |   |     | 5    |
| 〃 壤々     |    |     |   |   |     |     | 1   |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1※   |
| 〃 讓々     |    |     |   |   |     |     | 1   |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| シンシン 詵々  |    |     |   |   |     |     |     |   |     |     | 1   |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| 〃 添々     |    |     |   |   |     | 1   | 1   |   |     |     | 1   |   |   |     |     |     |     | 1    |   |   |   | ◎ | 4 # |      |
| 〃 森々     |    |     |   |   |     |     | 1   |   |     |     |     |   |   | 015 |     |     | 011 |      |   |   |   | ◎ |     | 7 #  |
| セイセイ 青々  | 2  |     |   |   |     |     |     |   | 3   | 1   |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 6    |
| 〃 清々     |    |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     | 011 |     |     |      |   |   |   |   |     | 1 #  |
| 〃 凄々     |    |     |   |   |     | 01① | 1   |   |     |     | ①   |   |   |     |     |     |     |      | ◎ |   |   |   |     | 3    |
| 〃 掣々     |    |     |   |   |     |     | 1   |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| 〃 濟々     | 2  |     |   |   | 1   |     |     | 1 |     |     | ②1  |   |   |     |     |     |     |      | ◎ |   | ◎ |   | ◎   | 7 #  |
| 〃 勢々     |    |     |   |   | 1   |     | 1   |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 2※   |
| セキセキ 寂々  |    |     |   |   |     |     |     | 1 |     |     |     |   |   |     | 01① |     |     | ①    | ◎ |   |   |   | ◎   | 3 #  |
| セツセツ 切々  |    |     |   |   |     |     |     |   |     |     | 2 2 |   | 2 |     |     |     |     |      |   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎   | 6 #  |
| 〃 節々     |    |     |   |   |     |     |     |   |     |     | 1   |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1※cf |
| 〃 竊々     |    |     |   |   |     |     | 1②  |   | 1 1 |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 5    |
| センセン 芊々  | 1  |     |   |   |     |     |     | ① |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 2    |
| 〃 緘々     | 2  |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 2    |
| ゼンゼン 冉々  | 1  |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| 〃 冉々     | 1  |     |   |   |     |     |     |   |     |     |     |   |   |     |     |     |     |      |   |   |   |   |     | 1    |
| ソウソウ 忿々  | 2  | 011 |   |   | 211 |     | 111 |   |     | 1   |     |   |   | 011 |     |     |     |      | ◎ | ◎ | ◎ |   | ◎   | 9    |

|          | 懷 | 嘗 | 平 | 今 | 沙 | 覺  | 延  | 太 | 長 | 夢   | 毛 | 漢 | 史   | 玉   | 狂   | キ | 御     | 話 | 色 | 文 | 運 | 落 | 日 | 備考   |
|----------|---|---|---|---|---|----|----|---|---|-----|---|---|-----|-----|-----|---|-------|---|---|---|---|---|---|------|
| ソウソウ 忽々  |   |   |   |   |   |    |    |   | 1 |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1 #  |
| 〃 涼々     |   |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   | 0/1 |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1 #  |
| 〃 嘈々     |   |   |   |   |   | 1① |    | 1 |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 3    |
| 〃 鈴々     |   |   |   |   |   | ①  |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1 #  |
| 〃 鏐々     |   |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   | 1   |     |     |   |       | ◎ |   |   |   |   |   | 1    |
| 〃 蒼々     |   |   |   |   | 1 | 1  | ①  |   |   |     |   |   | ①   |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 4 #  |
| 〃 族々     | 1 |   |   |   |   | ②  |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 3    |
| 〃 環々     | 1 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1    |
| 〃 叢々     | 1 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1※   |
| ソツソツ 卒々  |   |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   | 1 | 0/2 |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 3    |
| タンタン 坦々  |   |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   | 1   |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1 #  |
| 〃 湛々     |   |   |   |   |   | 1  |    |   |   |     |   |   | 1   |     |     |   |       |   | ◎ |   |   |   | ◎ | 2    |
| チチ 遅々    | 2 |   | 1 |   | 5 | 2  | ①  |   |   |     |   |   |     |     | 0/1 |   | ①     | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 13 # |
| チチ 沖々    | 1 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   | ◎ |   |   | ◎ | ◎ | 1※   |
| チチ 丁々    |   |   |   |   |   |    |    |   |   | 0/1 |   |   | 0/1 | 0/2 |     | 1 |       | ◎ |   |   | ◎ | ◎ |   | 5 #  |
| 〃 迢々     |   |   |   |   |   |    | 1  |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1    |
| 〃 喋々     |   |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   | 1 |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1※ # |
| チンチン 沈々  |   |   |   |   | 1 | 2  | 1  |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   | ◎ |   |   | ◎ | ◎ | 4 #  |
| トウトウ 滔々  |   |   |   |   |   | 3  |    |   |   | 1   |   |   |     |     |     |   | 0/1 2 |   | ◎ |   |   | ◎ | ◎ | 7 #  |
| 〃 蕩々     | 1 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       | ◎ | ◎ |   |   | ◎ | ◎ | 1 #  |
| 〃 騰々     | 1 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1    |
| 〃 琴々     | 1 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     | 0/1 |     |   |       | ◎ |   |   |   |   |   | 2 #  |
| ドウドウ 堂々  |   |   |   |   |   | ①  | 1① |   |   |     |   |   |     |     |     | 1 |       | ◎ | ◎ |   |   | ◎ |   | 4 #  |
| ナンナン 喃々  | 1 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1 #  |
| ハハ 嘩々    | 4 |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 4    |
| バクバク 漉々  |   |   |   |   | ① | ①  |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 2 #  |
| ハツハツ 發々  |   |   |   |   |   |    |    |   | ① |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1※   |
| ハンハン 泛々  |   |   |   |   |   |    | 1  |   |   |     |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1 cf |
| バンバン 盤々  |   |   |   |   |   |    |    |   |   |     |   |   |     |     |     |   | 1     |   |   |   |   |   |   | 1※   |
| ヒビ 霏々    | 1 |   |   |   |   |    |    | 1 |   | 0/1 |   |   |     |     |     |   |       |   |   |   |   |   |   | 1 #  |
| ヒョウコウ 飄々 | 1 | 1 |   |   |   |    |    | 1 |   | 0/1 |   |   |     |     |     |   |       |   |   | 縹 |   | 縹 |   | 4 #  |

|         | 懷 | 菅  | 平 | 今        | 沙  | 寛  | 延       | 太  | 長  | 蒙   | 毛  | 漢 | 史  | 玉  | 狂  | キ  | 御  | 誤  | 色 | 文 | 運 | 落 | 日 | 備考   |
|---------|---|----|---|----------|----|----|---------|----|----|-----|----|---|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|------|
| ヒヨウの 砂々 | 2 |    |   |          |    |    | 5④<br>1 | ①  |    |     |    |   |    |    |    |    | 0① |    | ○ | ○ |   |   |   | 14   |
| 〃 渺々    |   |    |   |          | 1① |    |         | ④  | 0① |     |    |   | 1  | 1② | 0① | 0① |    | 1  |   |   | ○ |   | ○ | 14 # |
| 〃 森々    | 3 |    |   |          |    | 1  |         |    |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    | ○ |   |   |   | ○ | 4※   |
| フンブン 分々 | 1 |    |   |          |    |    |         |    |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | 1 #  |
| 〃 紛々    | 7 |    |   |          |    |    |         |    |    |     |    |   | 1  |    |    |    | 1  | 1③ |   |   |   |   | ○ | 13 # |
| ヘイヘイ 平々 |   |    |   |          | 0① | ①  | 1       | 1  |    |     | 1  | 1 | 4① |    |    |    | ①  | ①  |   |   |   |   | ○ | 12※# |
| ベキベキ 暮々 | 1 |    |   |          |    |    |         |    |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 1    |
| ヘンベン 片々 | 2 |    |   |          |    | 2④ | ①       |    | 1  |     |    |   |    |    |    |    |    | ②  | ○ | ○ |   | ○ |   | 12※# |
| ベンベン 便々 |   |    |   |          |    |    |         |    | 2  | 1   |    |   | 1  |    |    |    |    |    |   |   | ○ |   | ○ | 4※   |
| ホウホウ 逢々 |   |    |   |          |    |    |         |    |    |     |    |   | 1① |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 2※   |
| ボウボウ 茫々 | 5 |    |   |          | 1① | 3② | 1②      | 1③ |    |     |    |   |    |    |    | 0① | ①② | 2③ | ○ | ○ | ○ |   | ○ | 29 # |
| 〃 芒々    |   |    |   |          |    |    |         |    |    | 1   |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 1    |
| 〃 茫々    |   |    | 1 |          |    |    |         |    |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 1※   |
| 〃 忙々    |   |    |   | 1        |    |    |         |    |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 1※   |
| ボクボク 穆々 | 2 |    |   |          |    |    |         |    |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   | ○ |   |   |   | 2    |
| マンマン 漫々 |   |    |   |          | 2④ | 5① | 2④      | 1① |    |     |    |   | 1① | 0② | 0② | 0② | 3  | ○  | ○ |   | ○ | ○ |   | 45 # |
| 〃 満々    |   |    |   |          |    |    |         |    | 1  |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   | ○ | 1 #  |
| メイメイ 明々 |   |    |   | 1①<br>②① |    | 3① | ①       | 1  |    |     |    |   |    |    |    |    |    | ①  |   |   |   |   | ○ | 11 # |
| 〃 冥々    | 3 |    |   |          | 1② | 2① |         | 1  |    |     |    |   |    |    |    |    | 0① | ①  |   |   |   |   | 冥 | 11 # |
| メンメン 綿々 | 1 |    | 2 |          |    | ②  |         | 1  |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    | ○ |   | ○ |   |   | 6 #  |
| モウモウ 濛々 | 1 | 0① |   |          |    |    |         |    |    |     |    |   | 0① | 13 |    |    | 1  |    |   |   | ○ |   |   | 16 # |
| 〃 蒙々    |   |    |   |          |    |    |         |    | 2  | 1   | 2  | 5 | 1  |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 11   |
| 〃 朦々    |   |    |   |          |    |    | 1       |    |    |     |    |   | 1  |    |    |    |    |    |   |   |   | ○ |   | 2※   |
| 〃 矇々    |   |    |   |          |    |    | 1       |    |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 1    |
| モクモク 默々 |   |    |   |          |    |    |         |    |    |     | 1  |   | 0① |    |    |    |    |    | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 2 #  |
| ユウユウ 悠々 | 8 |    |   |          |    | ①  |         | 0① | 0① | 10③ | 2② |   | 0① |    | 0① |    |    | ②  | ○ | ○ |   | ○ |   | 50 # |
| 〃 幽々    |   |    |   | ①        |    | 3  |         | 1  |    |     |    |   |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   | 5    |
| 〃 優々    | 1 |    |   |          |    |    |         |    |    |     |    |   |    |    |    |    | 0② |    |   |   |   |   |   | 3※   |

|         | 懷 | 舊 | 平   | 今 | 沙 | 覺 | 延 | 太 | 長 | 蒙         | 毛     | 漢 | 史 | 玉   | 狂     | キ     | 御   | 謠 | 色 | 文 | 運 | 落 | 日    | 備考     |
|---------|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|-----------|-------|---|---|-----|-------|-------|-----|---|---|---|---|---|------|--------|
| ユウユウ 呦々 |   |   |     |   |   |   |   | ① |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1      |
| ヨウヨウ 夭々 |   |   |     |   |   |   |   | ① |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1      |
| 〃 洋々    |   |   |     |   |   |   |   | 1 |   | 0 1       |       |   |   | 1   |       |       |     |   | ◎ | ○ |   |   |      | 3 #    |
| 〃 揺々    |   |   |     |   |   |   |   | 1 |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1      |
| ランラン 爛々 |   |   |     |   |   |   |   |   |   |           |       |   |   | 1   |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1 #    |
| リリ 離々   | 1 |   |     |   |   |   |   | ① |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   | ◎ |   |   |   |      | 2      |
| リリ 遼々   |   |   |     |   |   |   |   |   |   | 1         |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1※     |
| リンリン 凛々 | 1 |   | 0 1 |   |   |   |   |   |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 2 #    |
| 〃 懷々    | 1 |   |     |   |   |   |   |   |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1 #    |
| 〃 穢々    |   |   |     |   |   |   |   |   |   |           |       |   |   | 0 1 |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1      |
| ルイルイ 累々 |   |   |     |   |   |   |   | ① |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   | ◎ |   |      | 1 #    |
| 〃 龜々    |   |   |     |   |   |   |   | ③ |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 3      |
| レイレイ 冷々 | 1 | 1 |     |   |   |   | ① | ① |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   | ◎    | 4      |
| 〃 玲々    |   |   |     |   |   |   |   | ① |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1      |
| レキレキ 歴々 |   |   |     |   |   |   |   |   |   | 1 1 1 1 1 | 1 1 1 | 1 |   |     | 0 1 1 | 0 1 1 |     |   |   | ◎ | ○ | ◎ | 20 # |        |
| レツレツ 列々 |   |   |     |   |   |   |   |   |   | ①         |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1      |
| 〃 烈々    |   |   |     |   |   |   |   | ② |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 2 #    |
| レンレン 連々 | 1 |   |     |   |   | 1 | 2 |   | 1 | 1         |       |   |   | 1 1 |       | 0 1   | 0 1 |   | ◎ |   | ◎ |   | ◎    | 10     |
| 〃 漣々    | 1 |   |     |   |   |   |   |   |   |           |       |   |   |     |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1      |
| ロウロウ 臙々 |   |   |     |   |   |   |   |   |   |           |       |   |   | 0 1 |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 1 #    |
| ロクロク 碌々 |   |   |     |   |   |   |   |   |   | 1         |       |   |   | 1   |       |       |     |   |   |   |   |   |      | 2 cf # |

## 調査資料

- ① 2 節における AA (ト) 型の歴史的概観に使用する資料 A ～ H の計 31 文献について、B (注 8) と D・H (筆者の調査) のほかは索引類を以下に示す。なお、用例引用には岩波書店『日本古典文学大系』を用い、それ以外はテキストを [ ] に併記する。

A: 辰巳正明『懷風藻漢字索引』新典社 1978、川口久雄・若林力『萱家文草 萱家後集 詩句總索引』明治書院 1978

C: 小峯和明『新日本古典文学大系 (別巻) 今昔物語集索引』岩波書店 2001 [新日本古典文学大系『今昔物語集一～五』1993]、増田繁夫・長野照子『宇治拾遺物語総索引』清文堂 1975、深井一郎『沙石集総索引 慶長十年古活字本』勉誠社 1980 [同『影印篇』]、金田一春彦・清水功・近藤政美『平家物語総索引』(覚一本) 学習研究社 1973、北原保雄・小川栄一『延慶本平家物語 索引篇』勉誠社 1990～1996 [同『本文篇』]、西端幸雄・志甫由紀恵『土井本太平記本 文及び語 彙索引』勉誠社 1997、青木伶子『広本・略本文記総索引』武蔵野書院 1965、時枝誠記『徒然草 総索引』至文堂 1967

D: 蒙求抄・毛詩抄・玉麈抄: 勉誠社『抄物大系』、長恨歌并琵琶行抄: 岡見正雄博士還暦記念刊行会編『室町ごろ——中世文学資料集——』角川書店 1978、史記抄: 清文堂『抄物資料集成』、漢書列傳竺桃抄: 清文堂『続抄物資料集成』

E: 内山弘『天正狂言本 本文・総索引・研究』笠間書院 1998、北原保雄ほか『大藏虎明本狂言集総索引』武蔵野書院 1982～1989 [北原保雄・池田廣司『大藏虎明本狂言集の研究』表現社 1972～1983]、北原保雄・大倉浩『狂言記の研究 上 影印篇』[同『下 解説篇・翻字篇・索引篇』] 勉誠社 1983]

F: 金田弘『天草本金句集本文及び索引』白帝社 1969、江口正弘『天草版平家物語対照本文及び総索引』明治書院 1986、京都大学文学部国語学国文学研究室『文禄二年 耶蘇會板伊曾保物語 (本文・綴字・解題・索引)』京都大学国文学会 1963

G: 榊原邦彦他『御伽草子総索引』笠間書院 1988

H: 新潮日本古典集成『謡曲集 (上・中・下)』1983～1988

- ② 古辞書類は次のとおり:『色葉字類抄研究並びに総合索引』『文明本節用集研究並びに索引』『運歩色葉集 (静嘉堂本)』(以上は中田祝夫編『古辞書大系』におさめられたもの)、京都大学文学部国語学国文学研究室編『元龜二年京大本運歩色葉集』臨川書店、小島幸枝編『耶蘇會板落葉集総索引』笠間索引叢刊 55、土井忠生・森田武・長南実編訳『邦訳日葡辞書』岩波書店

リュウ レイ／文芸・言語研究科  
(2003 年 9 月 16 日 受理)